

の利用削減が叫ばれている。環境省が策定中の「プラスチック資源循環戦略」では、石油由来のプラスチックに代わる素材としてバイオマスプラスチックに注目。国内使用量を30年までに、13年度の7万トから約200万トに拡大する計画を立てて

いる。長谷川社長は「将来を見据えてバイオマスプラスチックを使った商品開発に取り組んでいるが、世間の関心はまだ低い。受賞を励みに、普及により一層力を入れていきたい」と話している。

（岩崎大樹）

## 省エネ活動に大臣表彰

### 清川メッキ 電気の使用効率化



原田環境相(左)から大臣表彰を受ける清川メッキ工業の清川肇社長(右)3日、東京都千代田区のイイノホール&カンファレンスセンター

電子部品や半導体向けめっき加工の清川メッキ工業(本社福井市和田中1丁目、清川肇社長)が約10年前から取り組む省エネ活動が、本年度の環境大臣表彰を受賞し3日、東京都内で表彰された。

環境省は1998年度から、地球温暖化防止対策に功績のあった個人、団体を表彰

している。本年度は技術開発・製品化、環境教育活動などの5部門に145件の応募があり、39個人・団体が大臣表彰を受けた。

清川メッキ工業は対策活動実践・普及部門での受賞(計14社)。同社は2008年のリーマンショックを受け省エネ活動をスタート。めっき

液を温めるヒーターなどで電気の使い方を効率的に見直した。具体的には電力計測器を導入したり、設備を適切にメンテナンスしたりしてエネルギーの効率化に取り組んだ。

ロボットを導入し作業時間短縮にも取り組んだほか、社内外に向けた環境教育を立案した。全社的に継続的に省エネを図り、17年は活動を始めた08年と比べ二酸化炭素排出量を64・4%削減した。

表彰式には清川社長らが出席し、原田義昭環境相から表彰状を受け取った。清川社長は「小さいことの積み重ねを地道に続けたことが認められ社員の励みになる。今後も取り組みを進化させていきたい」と話した。

（五十嵐靖尚）

ナカテック(坂井)  
洗浄機部門を買収

大阪の企業から

ガス、化学など各種プラント設計施工のナカテック(坂井市春江町藤鷲塚、中山浩行社長)は、大阪府に本社を置く企業から、製薬会社や食品会社の工場で使われる洗浄機などを製造する事業部(三重県伊賀市)を買収した。

このほど事業譲渡契約を結